

ゆたかの飛耳長目(第2回)要旨

日時	令和4年7月20日(水) 午後3時30分～
場所	安曇野ハーブスクエア
テーマ	山麓エリアの景観を活かした観光促進
参加者	山麓地域で個人事業を営む皆さん 8人

●安曇野の良さは、「景観」

(参加者)安曇野って何が魅力かなあって言われると、別にスキー場があるわけでも、軽井沢みたいでも、東京都みたいでもなく…「景色」がすべてかなと思う。特に山麓線は、安曇野の市街地に住んでいる人も、非日常を味わえると思って来ていただいているので、ぜひともその景色を守ってほしい。イギリスだとコッツウォルズとか、フランスだとプロヴァンスとかみたいに、何もなくても景色そのものが素晴らしいっていう想いを、我々も持っていたいなど感じている。

(参加者)新しくお店を構える際に、長野、松本、安曇野も何軒か見たが、最終的に決め手になったのは、景色が良い場所だということ。山があって、田んぼがあって、緑があって、元々ある原風景が変に開発されなくて残っているのが、いいなあと思った。一方、20年前に比べて田んぼってこんなに少なかったかなと感じていて、後々聞いていくと、継ぐ人がいないとか、そういう話を聞いて、色んな問題はあるんだなあと思ったりもする。

(市長)ずっとそこに住んでいると、山の良さとか景観の良さって気付かないんですよね。たまに東京の友達が遊びに来ると、朝散歩に出てびっくりして山を見てますよ。そういう意味で言うと、安曇野には本当にきれいな所がたくさんあります。

(参加者)小学生の頃から、家族で毎年ホテルに宿泊に来ていて、安曇野は大好き。その時の記憶があったので、たまたまこっちで中古物件を見つけて、すぐ買った。改めて山麓線を見ると、余計な看板がなくていいなあと思っている。変な看板もなく、チェーン店も建ってない。本当にきれいな景色。こういう所に住みたいという想いが実現して、幸せだなと感じている。なので、新たな開発や看板が増えているのを見ると違和感、抵抗感をもってしまう。

(市長)安曇野市は、屋外広告物条例で規制地域を3つの区分に分けてるんですよ。この山麓線は第2種規制。今までの規制のやり方って、市街地、国道147沿線とかは一番規制が緩い。そして、厳しい第1種規制があって、その中間が2種規制なんですけども。現状、規制地域の区分の仕方が大雑把なところも見受けられるので、担当課には地域の特性を見て、飛び地で厳しい規制区分があってもいいと思うと伝えてあります。例えば、山麓線は2番目じゃなくて、1番厳しいところにすべきとかね。ここのエリアは景観づくり住民協定を結んでいて、他よりも少し規制を強くしているので理想的なんです。

(参加者)この間みんなで話をした。茶色の看板が立ってお店の名前が書かれているだけ、そういう統一した看板に山麓線沿いが全体的になればいいと思う。協定で。

(市長)住民協定は、住民の皆さんが自主的にやりましょう、って言ってくれる協定なんです。だから、行政側からこれやってくださいって頼んだのではなくて、住民の皆さんが取りまとめてくれたんですよ。

(参加者)豊里地域は、ほぼ一方的に、ここの住民になったら、指定された看板屋さんに行って新しく看板作ってくださいね、みたいになっている。

(市長)それくらいしないとダメなんです。僕が知っている限り長野県で一番すごいのは南木曾町の妻籠。あそこは、馬籠と比べても看板が全くない。それは法律じゃないんですよ、地域の力でそこまでもっていったすごい事例。

(参加者)それから比べると山麓線には結構ありますもんね、広告募集とか書いてある看板。

(市長)それはね、一個一個つぶしていかなきゃいけないんですけどね。

(参加者)どこからどこまでが景観協定なのか、住んでいる自分たちも分からない。

(市長)担当課に確認します。いずれにせよ、規制地域の区分の見直しを検討したいと思います。

●通学路の安全対策

(参加者)山麓線は、トラック・トレーラーが通る通学路。朝晩見ているだけで、毎日10tトレーラーが走っている。山麓線の上は、子どもの数が非常に多い。歩道もない、横断歩道もないという危険な道路状態にある。

(市長)穂高北小は、スクールバスがあるでしょう？

(参加者)スクールバスも利用しているが、帰りは、豊里の信号機の下のところまでバスが止まって、そこからは徒歩になる。行きは、山麓線に直接バスが停車していて、乗車中のバスを後続車が追い抜き、反対車線の車もスピードを緩めることなくどんどん来る。

(市長)それがね、日本の法律の悪いところなんです。アメリカに3年住んでましたけど、スクールバス止まっているのを抜かすと一発でアウトですからね。

(参加者)ここは、みんな急いでいるのか、バンバン通る。

(市長)それはダメですね。実は長野県が一番モラルが良いんですよ。横断歩道で子どもが立っていると、止まる率が日本で一番高い。それにもかかわらず、そういう事やってるのは残念ですね。

(参加者)山麓線では誰も止まらない。うちの子どもが手を挙げてても…。時々、穂高交番に話してパトカーで回ってもらって少し改善されるので、それが一番効果ありますね。

(市長)そうですか。安曇野警察署にも相談してみます。

(参加者)スクールバスの問題は、他にもある。普通の道端に止めて、児童降ろして、そこに送り迎えをする車が来るとラッシュになる。それも交通の障害になっていて、子どもの飛び出しなんかも多くてヒヤヒヤ事故がしょっちゅうある。絶えず地区のPTAでは話があがるんだけど、なかなか学校とか教育委員会には届いてないのが現状。できれば、お店などの

敷地内をバス停にしてもらえることが一番安全。難しいようであれば、通学バスのバス停とか、児童横断注意とか、ドライバー向けに注意喚起する看板を一つ掲げてくれるだけで違うと思う。

(市長)スクールバスの問題は、今週どこかで教育委員会と話します。近隣市町村なども調べてもらいます。

●安曇野ブランドについて

(参加者)事業をやっていると「安曇野産」にこだわるお客さんが多いように感じる。

(参加者)安曇野産、私もすごく聞かれます。何にしても良いイメージがある。

(市長)なるほど。僕が言っちゃいけないけれど、安曇野って思ったよりブランド性ありますよね。

(みんな)すごくある。

(参加者)ブランドはあるにはあるが、年齢が高い方が遊びに来られる感じがあって。20～30代はちょっと弱い。

(市長)確かにね。まだまだ、20代30代っていうとね、安曇野の良さをわかってくれないっていうのもあると思うんですよ。

(参加者)やはり、若い方は足がネックになっちゃうみたいで。自分の車がないと移動がしづらくて。

(市長)今、若い人自分の車持たないから。東京住んでいるとないですよ。

(参加者)持ってないですね。自転車での移動はやっぱり結構きつくて、雨に降られたり、日差しもすごかったりするんで、なかなか自転車だけを移動手段に据えるのは難しい。

(市長)そうですね。お店に来るお客さんって、結構県外の方お見えになりますか。

(参加者)多い。さらに年に何回も来てくれる方が多くて、びっくりする。

(市長)デスティネーション〈目的地〉としての安曇野もいいな。市単独でデスティネーションキャンペーンやろうかなあ。いやでも、今日ここに集まっていた参加者の皆さんもほぼ移住された皆さん。これだけ有能な方が来てくれたんだから、安曇野ブランド力はある、本当にそう思います。いや、今日は色々なご意見を伺えて良かったです。ありがとうございました。